

---

# 東方少年録～迷い込んだ世界

欠陥電気

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方少年録〜迷い込んだ世界

### 【Nコード】

N0078BA

### 【作者名】

欠陥電気

### 【あらすじ】

もしあの少年が初音島に帰って来ずに東方の世界に迷い込んだら…

これは作者の息抜きに書きたいと思った妄想創作物です。私が書いてるもう一つの小説を見ないと分からない所もあります。また、主人公が最強で多分ハーレムになると思います。そういうのが苦手な人は戻ってもらっても構いません。

## プロローグ(前書き)

どうも、初めまして。ちょっと前から書きたいと思っていた東方を書いていきたいと思います。いろいろとアドバイスをもらえると助かります

## プロローグ

とある世界の街で…

「ふう…いろいろと月日が経ったし…そろそろ帰ろうかな…」

俺の名前は神崎<sup>かんざき</sup> 光麻<sup>こうま</sup>

とある事情で自分が居た世界とは別の世界に居た…え？そこが何の世界かって？ん〜耳が尖ってる人がいっぱい住んでいる世界かな？

「さてと…ってあれ？誰だ？あの女の人…」

見た感じ金髪の女の人が街路に立っていた。俺は好奇心でその女の人に近寄ってしまった…自分の運命を左右する事を知らずに…

「あ〜…」

「…あら？わたくしに何かご用からしら？」

「いや、そんなとこに立って何をしているのかなあ〜って思いました…あと、その喋り方辛くないですか？素の状態で構いませんよ」

「あらそう？ならそうさせてもらおうわ」

「…途端に雰囲気変わったな…で？何であなたはこんな所に立っているんですか？」

「ある人を待っていたのよ」

「ある人？」

「でも…もう待たなくても良くなったわ」

「え？」

「あなたが来てくれたからもう問題無いわ」

女の人がそう言った直後、俺の足元に穴があき、当然俺は落ちていった

「うわあああー!!」

「ふふ…ようこそ…私の…」

女の人のが何か言っていた気がしたが穴…というか隙間に落ちたせいで聞こえなかった…

## 第一話（謎の世界）（前書き）

何とか更新しました。？の口調がおかしいですが、よろしくお願  
い  
します

## 第一話（謎の世界）

「…どうしてこうなった…」

状況を説明しよう！……俺は今、空から落ちています！…しかもかなりの高さなんだよ…

「ってこんな状況で冷静になってる場合か！」

くそ！あの変な隙間？みたいなのに落ちて、目が覚めたら…空から落ちていた！

「あの金髪の女の人のせいか！くそ！覚えてるよ！！」

ってマジでこんな事言ってる場合じゃない！！このままじゃ俺死んじゃう！

「まだ死にたくないよ〜！…って真下に湖が…そうだ！」

こうなったら、あの湖に飛び込むしかない！

「濡れるし、痛いけど…これしか方法が無い！」

俺は、体制を無理矢理変えてなるべく体にダメージがいかないようにした…そして

ザバーーン！！

豪快な音をたてて、俺は湖に落ちた…

「ぶっ！！（とりあえず上に上がらなきゃ！）」

自然と体にダメージは無かった為、溺れずに済んだ

「ぶはあ〜！ハア…ハア…全く…災難だな…でも、無事で良かった…それにしてもここは一体…どこなんだ？（おまけに隙間に落ちる前に居た金髪の女の人…何て言ってたんだ？…）」

俺がそう考えていると、誰かが近づいて来る気配を感じたので、後ろを振り向くと背中氷の羽？が生えた小さい女の子としっかりしてそうな女の子が居た…

7

「アンタ！あたいのなわばりで何してんのよ！」「チ、チルノちゃん！いきなりそんな聞き方は無いと思うよ！？」

「だって大ちゃん…」

「あのお二人共？お取り込み中申し訳ないんだけど…」

「何よ？」

「この辺で人が居そうな場所とか知ってる？」

「ん〜とね…あ、霊夢の所だったら知ってるよ！あたいたら天才ね！」



「チ、チルノちゃん…」

「あはは…ところで、二人共名前は？」

「あたいはチルノ！」

「私の名前は大妖精です」

「俺の名前は神崎光麻だ。よろしくな あ、そっだお近づきの印に、お菓子あげるよ」

俺は右手をポケットに入れて握り、飴を頭の中に想像した…そして右手を開くと、手には包装されたグレープ味の飴がのっていた

「ほら」「わあゝ ありがとう」

「あ、ありがとうございます。」

「気にしなくて良いよ じゃあチルノちゃん？その霊夢って言う人の所に連れてってよ」

「良いよ」

「ありがとう」

こうして、俺はようやく人が居る所に行くことに…正直寒いし、服も乾かしたいし…助かるな…

「ここが霊夢が居る神社だよ」

「……………」

俺は唾然だった…何故かって？階段が長いからだよ

「この上に、霊夢が居るから」

「分かったよ。ありがとうチルノちゃん」

「うん。バイバイ」

チルノちゃんはそう言つとさっきの湖に帰って行った…

「さてと…登りますか…長いけど」

俺は、神社までの長い階段を登っていった…

第一話（謎の世界）（後書き）

原作やって無いと辛いですねw

でも更新していきます

第二話（迷い込んだのは幻想郷）（前書き）

何とか更新です

ではどうも…

## 第二話（迷い込んだのは幻想郷）

「ぜえ…ぜえ…全く…この階段長いよ…」

えらく長い階段を登り終え、一息ついてると何故か腋が出ている巫女さんが神社の掃除をしていた…

「よ、ようやく人を発見したよ…はあ…はあ…ふう」

多分…チルノちゃん達は背中に羽が生えてたし…妖精あたりかな？

「あの…すみません」

「あら？見たこと無い人ね？」

「あ、はい。何か金髪の女の人に話掛けたら、変な隙間に落ちて…目が覚めたら空から落ちてて…」

「はあ…またあいつの仕業ね…」

「あいつ？」

「ああ、気にしなくて良いわよ。いつもの事だし…で？あんたは元の世界に帰りたいの？」

「元の世界？ここは何処なんですか？」

「ここは“幻想郷”って言う世界よ」

「幻想郷？」

「幻想郷に来た人は、元の世界では忘れられた存在になるの…つまり最初から居ない存在になるの」

「……そんな」

「で、いきなりそんな事言われても理不尽でしょ？だから私はそんな人達を外の世界に送り返してるのよ」

「なるほど…」

「で？あんたは元の世界に帰りたいの？」

「えっと…出来れば帰りたいですね」

「そう…分かったわ…じゃあ準備の為に、4日待ってくれない？」

「分かりました」

「その間、私の神社に居てくれて構わないわ。」

「本当ですか！ありがとうございます！」

「そ、じゃあ中に入って」

「分かりました…あ、その前に…」

俺は賽銭箱の前に行き、お金を入れてお参りをした

パンパン

「……ふう…ん？巫女さん？どうしたんですか？そんな顔をして」

「……今、お賽銭入れてくれたの？」

「え？まあ入れましたけど…」

「……神だわ！さ！中に入って入って！」

いきなり態度変わったな…それに何か…目が金になってるけど…まあ良いか

「あ、私の名前は博麗霊夢。よろしく」

「俺の名前は神崎光麻です。よろしく」

「寝るときはそこの布団使ってちょうだい」

「はい。分かりました」

「じゃあ、お休み」

「お休みなさい」

ボタン

霊夢さんはそう言って戸を閉めた…

「ふう…何かいろいろと大変だったな…」  
あと4日…無事に帰れば良いけどな…

「居候の身だし…よし！家事でも手伝おうかな！」

そうと決めれば、今は寝るだけだな

「お休みなさい…zzz…」



**第二話（迷い込んだのは幻想郷）（後書き）**

何か…原作やらないとキャラの口調とか分かりませんねw

感想等ありましたらよろしくお願いします

## 主人公設定1（前書き）

今回は主人公の設定です…

ではどうぞ

## 主人公設定 1

名前：神崎 光麻  
かみさき ひろま

年齢：15歳

身長：158cm

体重：48kg

性別：男

髪色：黒

見た目：完全に女の子の顔（つまり男の娘）

目の色：オッドアイ（右目が青で、左目が赤）

性格：典型的なお人好しで、困っている人を放っておけない

休日になると、料理を自分で作り、いろいろと研究してたりしていた。特に甘い食べ物が好き

能力は今のところ不明だが：もしかしたら、覚醒するかもしれない  
幼い頃から父親に鍛えられ、剣の腕はかなりのものらしい：そのため、剣術を使える（テイルズの技のみ 作者がそれしか知らない為）  
作者がテイルズしか知らないため）

イメージ・CV：鳥海 浩輔

## 主人公設定1（後書き）

やっと更新… って言っても主人公の設定だけですがw

主人公についてですが、明らかに中二みたいな設定… というのは心  
の中で突っ込んでくださいw

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0078ba/>

---

東方少年録～迷い込んだ世界

2012年1月10日01時50分発行